

私たちを取り巻く「環境」、私たちが創り出す「環境」

——『人間環境論集』（特別号）に寄せて——

大阪産業大学人間環境学部は、2001年、「環境の世紀」と言われる21世紀の幕開けとともに誕生しました。その背景には、私たちがよく目にする「環境」、大気汚染や有害な廃棄物、水質汚濁、自然破壊や資源の枯渇、地球温暖化といった環境問題の深刻化という事実、またそれらを人類共通の課題として解決すべきであるという認識が存在していることは言うまでもありません。環境問題の解決には自然科学的な分析に加え、大量消費型の経済構造や開発重視の政策の転換、また物質中心の価値観・倫理観に対する反省、新たなライフスタイルの追求が不可欠です。

一方、「環境」とは本来、非常に幅広い概念です。私たちの日々の生活を取り巻く衣食住、音楽やメディア、都市の生活、様々な地域の文化や歴史、そして友人や家族、また自分自身の心と身体の状態もまた環境の重要な部分を占めているのです。人間環境を総合的な視野から研究し、新しい人間環境を創り出す知識や判断力と実行力をもった人材を養成するために、人文科学、心理学、社会科学、工学・社会工学、スポーツ科学、医学、生物学…といった研究者のほか、社会における様々な「人間環境」の只中で活躍してきたスタッフが力を合わせて教育・研究に取り組んできました。教育面での特徴としては、4年間一貫教育、修学アドバイザー制、ゼミナールやフィールド・スタジオワーク、実習などの実践的・少人数教育を実施してきました。

設立当時からのこのような考え方を発展させながら、現在、学部は文化コミュニケーション学科、生活環境学科、スポーツ健康学科の3学科から成り、大学院人間環境学研究科も2005年に設立され、現在に至っています。スポーツ健康学科の設立と人間環境学研究科博士課程（前期、後期）が完成年度を迎えることを記念して、この『人間環境論集』（特別号）をお届けするしだいです。

最後に、設立当初から学生の皆さんにアピールしてきたことを繰り返しておきましょう。狭義の「環境問題」も含めて「環境」がクローズアップされるのは、やはり、その中心に「人間」がいるからだと考えます。「環境問題」が人間の環境を危うくしているという側面とともに、「人間」こそがまさにそのような「環境問題」を引き起こしたのだという認識が必要だと思えます。

人間環境学部長・大学院人間環境学研究科長

木村英二

